

高等学校におけるユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善 ーウェルビーイングな学習環境づくりー

高校教育研修課	主任指導主事兼課長	藤後 泰祐	主任指導主事兼班長	脇本 真行
	主任指導主事	三浦 裕子	主任指導主事	室田 守
	主任指導主事	雲田 貴之	指導主事	秋山 徳人
	指導主事	栗田 堅介	指導主事	小口 洋平
	指導主事	鈴木 隆広	指導主事	西川 賢一
企画調査課	指導主事	千歳 歆		
特別支援教育研修課	主任指導主事兼課長	里 知純		
	指導主事	柳本いずみ	指導主事	八木絵梨奈

キーワード：ユニバーサルデザイン 授業改善 教員研修 ウェルビーイング

1 問題と目的

兵庫県教育委員会（2023）の調査によると、兵庫県立高等学校において、学校の授業がよく分かると感じている生徒の割合は、62.2%（令和4年度）であった。文部科学省（2018）は、高等学校学習指導要領解説総則編の中で、「わかる喜びや学ぶ意義を実感できない授業は生徒にとって苦痛であり、生徒の劣等感を助長し、情緒の不安定をもたらす、様々な問題行動を生じさせる原因となることも考えられる。教師は、生徒一人一人の特性を十分把握した上で、他の教師の助言や協力を得て、指導技術の向上、指導方法や指導体制などの工夫改善を図り、日頃の学習指導を一層充実させることが大切である」と述べている。わかる授業に向けた授業改善の視点として、ユニバーサルデザインの考え方がある。教育分野では、障害のある子どもを含む多様な子どもたちを包摂し、すべての児童・生徒がわかりやすく学びやすい教育のあり方を「教育のユニバーサルデザイン」として実践研究が進んでいる（菊池, 2022）。高等学校の授業においてユニバーサルデザインという概念は、平成30年度に高等学校において通級による指導が制度化されたことをきっかけに知られるようになった。独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（2020）は、障害のある生徒にとって分かりやすい授業は、障害のない生徒にも分かりやすい授業であることを全ての教員が理解し、指導力の向上に努めることが必要としている。また、こうした考え方を教職員全体で周知していくためには、研修の実施が必要であると述べている。

本県では、平成28年に県内小中学校3校をモデルとして、特別支援教育の視点をいかにした授業のユニバーサルデザイン化ハンドブック（兵庫県教育委員会, 2016）を作成した。授業づくりや学級経営に特別支援教育の視点を取り入れ、発達障害等のある児童生徒が学びやすいように指導方法等を工夫改善することは、結果として、全ての児童生徒にとってわかりやすい授業につながることを示された。しかし、高等学校における有効性についての検証はされていない。そこで、本研究では、高校教員3年次研修において授業のユニバーサルデザイン化に関する意識調査を行うとともに、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた研究授業を行い、その効果を明らかにすることを目的とする。また、昨年度から取り組んでいる、高等学校教員向けのユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善リーフレットを作成し、次年度以降の研修に生かすこととした。

高橋ら（2021）は、ユニバーサルデザインに基づく教室環境の整備、授業改善の実践を行った結果、児童の学習に対する注意集中時間や学習参加の姿勢が改善し、学習意欲が向

上するなど、学習面と心理面の両面に良い効果が得られ、通常の学級におけるユニバーサルデザインの有用性を示唆されたと述べている。令和5年6月16日に閣議決定された教育振興基本計画によると、ウェルビーイングとは身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいう。ユニバーサルデザインの視点に基づく授業改善を通して、ウェルビーイングを向上させることができるのではないかと考える。

2 実践研究

(1) 調査目的

授業のユニバーサルデザイン化に関する研修の受講前と受講後に表1に示した8項目の調査を行い、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりに関する意識の変化を明らかにする。

(2) 研修内容

「インクルーシブ教育システム」「高等学校における特別支援教育」「授業のユニバーサルデザイン化」「UDフォント活用」についての講義・演習を実施した。講師は県立教育研修所指導主事が務めた。次に、事前課題で各受講者が作成したユニバーサルデザインの視点に基づく授業の学習指導案を、各受講者がグループ内で発表した。その後、グループ内で1名の受講者が模擬授業を行い、ユニバーサルデザインの視点を取り入れられた授業であったかについて協議した。

(3) 研究の方法

- ・対象 高校教員3年次研修第1回受講者138名
- ・期間 令和5年7月10日
- ・方法 選択と記述併用でGoogleフォームによる調査
- ・結果

研修の受講前後に実施した調査結果を表1に示す。なお、研修受講後の調査項目については（ ）で示している。研修受講前と受講後と比較すると、8つの調査項目すべてで、数値の上昇が見られた。中でも、「2 授業のユニバーサルデザイン化の必要性を感じたか」と「8 ユニバーサルデザインの視点に基づく授業づくりの実践の必要性を感じたか」という調査項目では、研修受講後に受講者全員が「はい」と回答している。

調査項目	数値は%			
	受講前		受講後	
	はい	いいえ	はい	いいえ
1 インクルーシブ教育について説明できるか	39.4	60.6	93.5	6.5
2 授業のユニバーサルデザイン化という言葉聞いたことがあるか (授業のユニバーサルデザイン化の必要性を感じたか)	69.3	30.7	100.0	0
3 授業のユニバーサルデザイン化ハンドブック（兵庫県教育委員会, 2016）を知っているか（ハンドブックを活用したいと思うか）	12.4	87.6	94.3	5.7
4 高等学校における特別支援教育リーフレット（兵庫県立特別支援教育センター, 2020）を知っているか（リーフレットを活用したいと思うか）	2.2	97.8	87.0	13.0
5 勤務校の特別支援教育コーディネーターの先生を知っているか（勤務校の特別支援教育コーディネーターから助言をもらおうと思ったか）	69.3	30.7	91.9	8.1
6 UDフォントを知っているか（UDフォントを活用しようと思ったか）	81.8	18.2	96.7	3.3
7 UDフォントを使用した教材や学年通信等を作成したことがあるか（UDフォントを使用して作成しようと思ったか）	67.9	32.1	95.9	4.1
8 ユニバーサルデザインの視点に基づく授業づくりの実践をしたことがあるか（ユニバーサルデザインの視点に基づく授業づくりの実践の必要性を感じたか）	49.6	50.4	100.0	0

(n=138)

・ 考察

調査結果（表 1）から、講義・演習を通じて、「インクルーシブ教育システム」「高等学校における特別支援教育」「授業のユニバーサルデザイン化」「UD フォント活用」について受講者の知識・理解が深まったと考えられる。「3 授業のユニバーサルデザイン化ハンドブックを活用したいと思うか」「4 高等学校における特別支援教育リーフレットを活用したいと思うか」「8 ユニバーサルデザインの視点に基づく授業づくりの実践の必要性を感じたか」の数値上昇が見られることから、今後、授業のユニバーサルデザイン化の視点を取り入れた授業改善に向けた取組が進むことが期待できる。また、受講者による自由記述には、「ユニバーサルデザイン化を、今まで意識して行っていなかったが、自分自身が授業をわかりやすく進めている部分がユニバーサルデザインの視点だということを確認できた」「一つ一つの指示をとっても、曖昧な言い回しを避けるなどの意識を常に持つておくことが必要だと感じた」等の記載があったことから、受講者がわかりやすい授業づくりに取り組む必要性を再確認したと考えられる。

3 研究授業における取組

(1) 調査目的

教科ごとに研究授業を実施し、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業になっていたかについて参観者による評価を行い、授業改善の効果を明らかにする。

(2) 研修内容

2 の研修で獲得した知識を生かし、高校教員 3 年次研修受講者のうち、国語 1 名、地歴・公民 1 名、数学 2 名、理科 1 名、保健体育 1 名、外国語 2 名、情報 1 名、工業 1 名の教員が勤務校において研究授業を実施した。研究授業の様子の一部を図 1～図 3 に示す。研究授業の学習指導案作成にあたっては、ユニバーサルデザインの視点を取り入れることを必須とし、県立教育研修所の指導主事から助言を行った。その後、研究授業で取り入れられたユニバーサルデザインの工夫について協議した。

(3) 研究の方法

- ・ 対象 高校教員 3 年次研修受講者 119 名（※）
※ 国語、地歴・公民、数学、理科、保健体育、外国語、情報、工業
- ・ 期間 令和 5 年 9 月～11 月
- ・ 方法 選択と記述併用で質問紙による調査

調査項目は、兵庫県教育委員会（2016）が作成した、「特別支援教育の視点をいかした授業のユニバーサルデザイン化ハンドブック」を参考に、導入・展開の工夫に関する 3 項目、板書の工夫に関する 2 項目、視覚支援の工夫に関する 3 項目の計 8 項目を設定し、「かなりできている」「少しできている」「あまりできていない」「全くできていない」の 4 件法で回答を求めた。

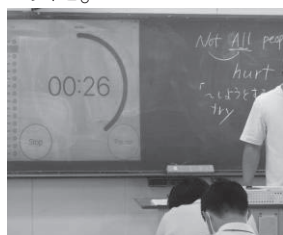


図 1 活動の見通し



図 2 視覚的な提示

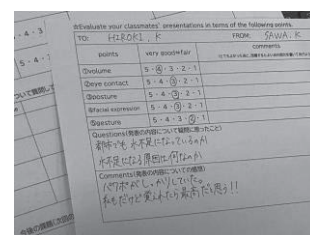


図 3 個別の配慮

表2 授業のユニバーサルデザイン化に関する研究授業実施後の参観者評価

数値は%

工夫	質問項目	かなりでき ている	少しでき ている	あまりで きていな い	全くでき ていない
導入・ 展開	カード・板書等で授業のねらいを明確に示すことができている。	57.9	28.6	11.8	1.7
	学習の流れを示し、授業の進度が分かる工夫をしている。	51.3	33.6	12.6	2.5
	課題に取り組みやすいよう、これまでの学習や生活との関連事項を示し、興味関心を高めるよう工夫している。	59.7	37.8	2.5	0
板書	簡潔な語句や丁寧な文字で書き、線や記号を活用している。	74.6	22.0	1.7	1.7
	学習の流れが分かるように板書している。	50.0	31.4	16.9	1.7
視覚 支援	理解を促したり、興味関心を持たせたりするために機器活用のねらいや効果を明確にして使用している。	71.4	26.9	1.7	0
	ICT機器を活用して興味関心を高め、学習内容の定着や理解の深化を図るようにしている。	73.9	18.5	7.6	0
	具体物を用いて視覚的に提示したり、操作的・体験的な活動を行ったりして、より深い理解を図るようにしている。	60.5	27.7	10.1	1.7

(n=119)

・結果及び考察

調査結果を表2に示す。どの質問項目についても、「かなりできている」と「少しできている」と回答した割合を合計すると80%以上となっていた。最高値は、「理解を促したり、興味関心を持たせたりするために機器活用のねらいや効果を明確にして使用している」の98.3%であった。全ての項目において80%以上になった要因として、研修により授業のユニバーサルデザイン化に関する知識を獲得したからだと考えられる。ここで、工夫ごとの各項目のうち、「かなりできている」の数値の高い項目に注目する。

導入・展開の工夫では、「課題に取り組みやすいよう、これまでの学習や生活との関連事項を示し、興味関心を高めるよう工夫している」が59.7%で、「全くできていない」と回答した受講者がいなかったことから、このことについて研究授業者全員の意識が高いことが考えられる。

板書の工夫については、「簡潔な語句や丁寧な文字で書き、線や記号を活用している」が74.6%であった。生徒が理解しやすいよう、簡潔な語句で書くことを意識している研究授業者が多かったと考えられる。

視覚支援の工夫については、「ICT機器を活用して興味関心を高め、学習内容の定着や理解の深化を図るようにしている」(73.9%)であった。研究授業では、ほとんどの教科で板書と併用してプロジェクタが用いられていた。また、1・2年生の授業においては、1人1台端末が積極的に活用されており、生徒の興味関心を高めるツールとして、タブレット端末が有効活用されていた。ユニバーサルデザインの視点に基づく授業において、ICT機器を活用した視覚支援の取組が進んでいることが伺える。

一方、「全くできていない」と回答した受講者が最も多かった項目は、導入・展開の工夫では、「学習の流れを示し、授業の進度が分かる工夫をしている」が2.5%であった。また、板書の工夫については、全ての項目が同一数値1.7%であった。これらは、教科によっては板書をしない授業展開があったことが要因と考えられる。視覚支援の工夫については、「全くできていない」と回答した受講者が最も多かった項目は、「具体物を用いて視覚的に提示したり、操作的・体験的な活動を行ったりして、より深い理解を図るようにしている」1.7%であった。教科によっては、このような工夫が困難であるため、今回の結果になったと考えられる。

4 今後の課題

本研究では、高校教員3年次研修受講者に授業のユニバーサルデザイン化に関する意識調査を研修前後に実施し、ユニバーサルデザインの理解を深めさせ、その視点を取り入れた研究授業を行い、効果検証を行った。その結果、授業のユニバーサルデザイン化への意識の向上を確認することができた。研究授業では、調査した全ての項目で高い割合を示した。ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業を行っていくことが、全ての生徒にとって分かりやすい授業につながり、障害のみならず、多様なニーズを有する生徒たちも含め、ウェルビーイングの向上につながることが考えられる。しかし、「あまりできていない」「全くできていない」と回答した項目も複数あり、引き続きユニバーサルデザインの視点からの授業改善に取り組む必要があると思われる。また、研修受講前には、ユニバーサルデザインの視点に基づく授業をしたことのある受講者の割合が50%未満であったことから、高等学校の教員には、このことがまだまだ浸透していないと考えられる。今後、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善を進めるにあたり、校内研修等において、今回作成したリーフレットの活用が有効であると考ええる。

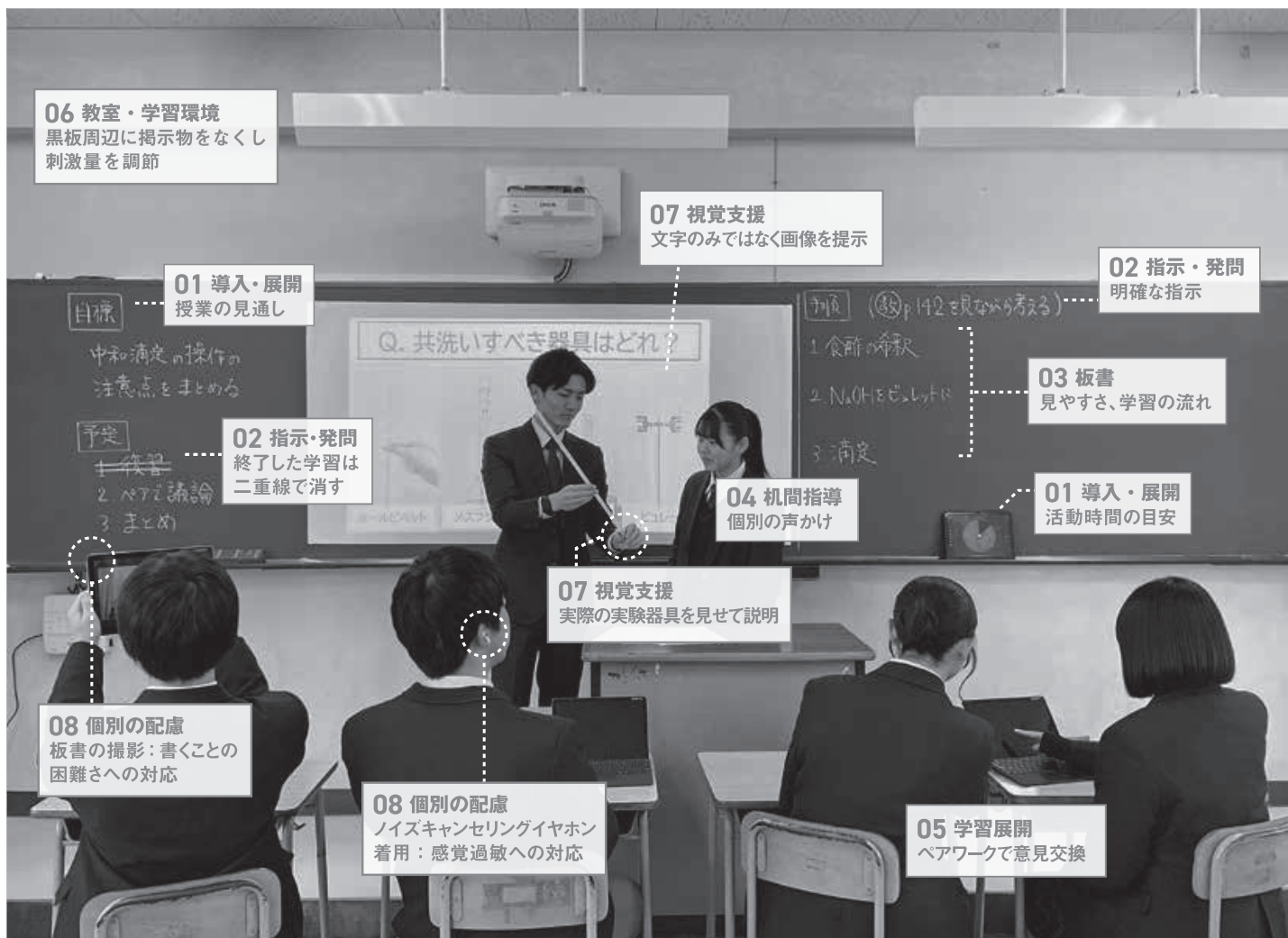
最後に、本研究では授業を受けた生徒への質問紙調査が行えなかったため、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業が生徒にとって効果的であったかについての検証はできなかったことが課題として残る。今後は、生徒への質問紙調査やインタビュー調査が必要である。

謝辞

本研究に御協力いただいた県立但馬農業高等学校・県立宝塚西高等学校・県立西脇北高等学校・県立三田西陵高等学校の先生方及び高校3年次研修受講者の先生方、そして御助言を賜りました東京学芸大学講師 内海友加利様に心より感謝を申し上げます。

文献

- 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（2020）高等学校教員のための「通級による指導」ガイドブック おさえておきたいQ&A, 4.
- 兵庫県立教育研修所（2023）高等学校における分かりやすい授業づくりに向けた一考察ーユニバーサルデザインの視点からー. 兵庫県立教育研修所研究紀要, 133, 71-76.
- 兵庫県教育委員会（2023）第3期ひょうご教育創造プラン（兵庫県教育基本計画）令和5年度実施計画.
- 兵庫県教育委員会（2016）特別支援教育の視点をいかした授業のユニバーサルデザイン化ハンドブックへすべての児童生徒が達成感や充実感を味わえる授業づくりをめざして～.
- 菊地哲平（2022）気になる！教育関連用語解説ユニバーサルデザイン. 教職研修, 12, 75.
- 文部科学省（2024）教育振興基本計画.
- 文部科学省（2018）高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説総則編.
- 高橋大悟・佐藤慎二（2021）ユニバーサルデザインに基づく教室環境と授業の改善の有用性に関する検討ー通常の学級に在籍する全児童の集中力向上の実証的な分析を通してー. 植草学園短期大学紀要, 22, 1-12.



高等学校における授業の ユニバーサルデザイン化

ウェルビーイングな学習環境づくり

障害の有無にかかわらず、すべての子どもが「わかる・できる」ように
工夫・配慮された通常の学級における授業

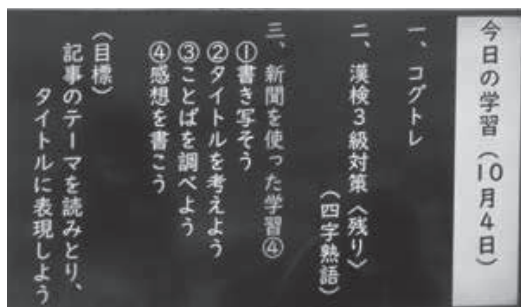
兵庫県立総合教育センター
発行／令和6年4月

授業のユニバーサルデザイン化の考え方に基づく、工夫

「特別支援教育の視点をいかした授業のユニバーサルデザイン化ハンドブック」兵庫県教育委員会（平成 28 年）を参照

01 導入・展開

（例）授業のはじめに学習の流れを示すことで、見通しを持って授業に取り組める



☐ 課題の明確化

分かりやすく主体的に取り組めるような課題設定を行い、自力解決の手がかりを持たせているか

☐ 教材提示

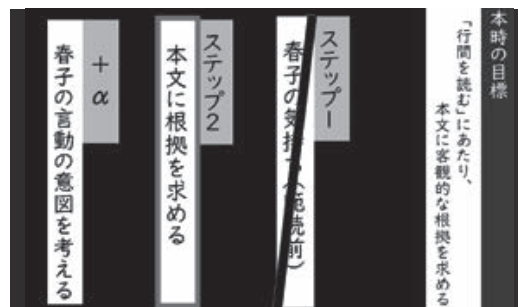
発達段階や教科の特性を踏まえた教材・教具の工夫をしているか

☐ 見通しのもたせ方

授業のはじめに、学習の流れを提示し、見通しを持って取り組めるようにしているか

02 指示・発問

（例）注目してほしい部分を赤で囲み、説明済みの部分は見え消しにすることで、指示がわかりやすくなる



☐ 具体的な言葉

あいまいな言葉を使わず、具体的な言葉で指示するようにしているか

☐ 明確な指示

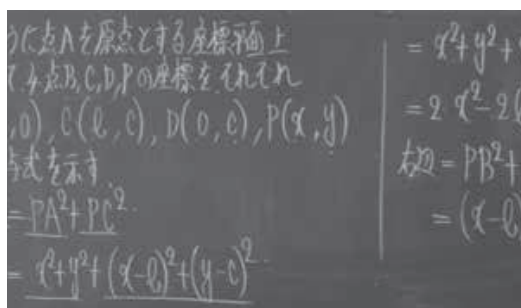
簡潔で分かりやすく、ゆっくり、はっきりした短い言葉で指示をしているか

☐ 働きかけ

積極的な気持ちをもたせるため、肯定的な言葉で行動を促しているか

03 板書

（例）黒板に縦線を引くことで、説明の流れが見やすくなる



☐ 見やすさ

線・枠囲み・矢印・記号等を用いて、大切な箇所がわかるようにしているか

☐ 流れ

作業手順や解答までの流れがわかるよう、板書の構成を工夫しているか

☐ 文字の大きさ・色

チョークの色や文字の大きさなど、生徒の「わかりやすさ」という視点にたっているか

04 机間指導

（例）生徒と同じ目線で声かけすることで、生徒が話しやすい雰囲気になる



☐ 声かけ

学習に困難さを示している場合、具体的な言葉で活動を促しているか

☐ 動き方

支援が必要な生徒を中心に机間指導し、生徒が教員に支援を求めやすくしているか

☐ 理解状況の把握

個別の声かけを行って、生徒の理解状況を把握しているか

配慮（8つのカテゴリー）

授業のユニバーサルデザイン化に向けて、自身の授業をチェックしてみましょう

05 学習展開

(例) タブレット端末でお互いの動きを録画し、模範の動きと比較することで、技術向上につながる



☐ 時間配分

タイマーの合図等で活動開始・終了し、次の活動へ気持ちを切り替えさせているか

☐ 個人の活動

教科書、タブレット等を使い、調べて解答する習慣を身に付けさせているか

☐ ペアワーク

二人で意見を出し合い、お互いの考え方に気付かせるようにしているか

06 教室・学習環境

(例) 黒板周辺に掲示物をなくすことで、注意が散漫にならずに、授業に集中できる



☐ 整理整頓

教室内のものについては、1つ1つ置く位置が決まっているか

☐ 学習のルール

暗黙のルールを作らないように、授業中の決まりなどをはっきり示しているか

☐ 刺激量の調整

教室内の掲示物を調整することによって、学習に集中しやすい環境を整えているか

07 視覚支援

(例) 自作の立体模型を用いて説明することで、抽象的な内容の理解につながる



☐ 掲示物の工夫

文字のみ、言葉のみの指示で伝えるのではなく、視覚的な配慮（写真・絵等）を併用しているか

☐ 具体物の活用

具体物（実物や見本等）を用いて、視覚で感じさせる工夫を取り入れているか

☐ ICT の活用

書画カメラ等を用い後列の生徒にも授業の内容が見やすいようにしているか

08 個別の配慮

(例) Web 教材を活用することで、生徒一人一人が自分の進度に合わせて学習できるようになる



☐ 補助教材の工夫

教材・教具の使い方を、手順化したり視覚化したりして示しているか

☐ 教材の活用

予想される困りやつまずきに対応するために、数パターンの教材・教具を準備しているか

☐ 個に対する支援

個に応じた学びを保障するために、具体的な手立てを準備しているか

高校教員3年次研修（第1回）

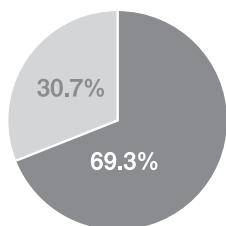
授業のユニバーサルデザイン化に関するアンケート（一部抜粋）

令和5年7月10日、研修前後に実施したアンケート結果を示しました。（回答人数 138 人）

研修前アンケート （before）

授業のユニバーサルデザイン化という言葉
を事前課題作成前に聞いたこと
がありましたか

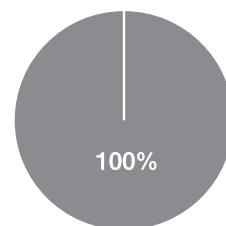
■はい ■いいえ



研修後アンケート （after）

授業のユニバーサルデザイン化という
視点の必要性を感じましたか

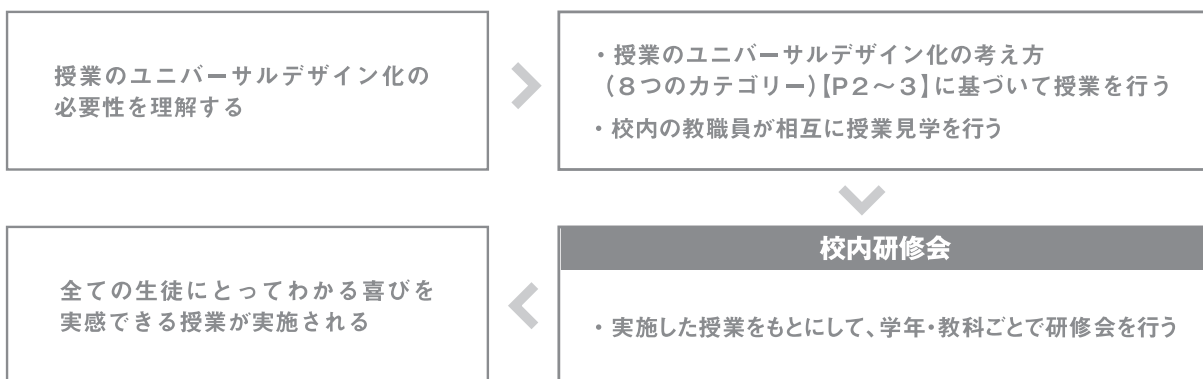
■はい ■いいえ



● 受講者の声（授業にユニバーサルデザイン化の視点を意識することが重要）

- （1） ユニバーサルデザイン化を、今まで意識して行っていなかったが、自分自身が授業をわかりやすく進めている部分がユニバーサルデザイン化の視点だということを意識できた。
- （2） 特定の生徒ではなくすべての生徒にわかりやすい授業を実施するために、各単元で授業のユニバーサルデザイン化が必要である。
- （3） 特別な支援を必要とする生徒が年々増えてきている影響もあり、授業のユニバーサルデザイン化の必要性を改めて実感しました。
- （4） ユニバーサルデザイン化を意識した授業づくりを行うことで、生徒全員が安心して授業を受けることができると思いました。1つ1つの指示をとっても、曖昧な言い回しを避けるなどの意識を常に持ちたいと思います。

● リーフレットの活用例ー授業のユニバーサルデザイン化に向けてー



通常の学級に 2.2% 在籍

特別支援教育の視点

令和4年12月に文部科学省より発表された「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について」では、公立の全日制又は定時制に在籍する高等学校の生徒を新たに対象として追加し、学習面や行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒数の割合は 2.2%であることが示されました。通級による指導の拡大をはじめとし、高等学校における特別支援教育の充実がますます求められています。

特別支援教育の充実を図っていくためにはどうすればよいでしょうか。まずは、普通の授業における取組を省察し、特別支援教育の視点から捉え直すことであると考えます。何気なく取り組んでいた工夫が、特別な教育的支援を必要とする生徒にとってのわかりやすい授業につながっていることが多くあります。本リーフレットの8つのカテゴリー等を参考に、特別支援教育の視点を意識していただきたいと思います。そして、それらのよい実践（good practice）を校内で共有することで、個人の専門性向上だけでなく、学校組織の財産になると考えられます。

（東京学芸大学 総合教育科学系 特別支援科学講座 講師／内海 友加利）

協力校

兵庫県立宝塚西高等学校／兵庫県立三田西陵高等学校／兵庫県立西脇北高等学校／兵庫県立但馬農業高等学校

お問い合わせ

兵庫県立総合教育センター 高校教育研修課 〒673-1421 兵庫県加東市山国 2006-107 TEL (0795)42-3103

05 教 2-045A4